

**こどもの権利を考えるシンポジウム2025  
inなは  
2025年12月10日（木）**

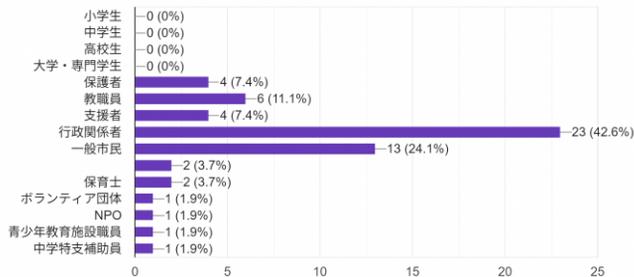
**WEBアンケート結果**

**アンケート回答数  
54件**

## ■ あなたの立場近いものをお選びください

あなたの立場に最も近いものをお選びください。

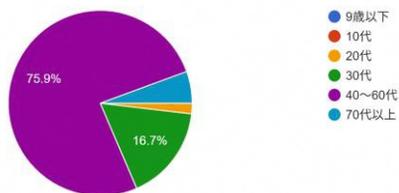
54件の回答



## ■ あなたの年齢を教えてください。

あなたの年齢を教えてください。

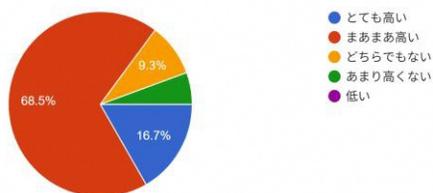
54件の回答



## ■ 今日のシンポジウムの満足度を教えてください。

今日のシンポジウムの満足度を教えてください。

54件の回答



## 上記でそのように答えた理由を教えてください。

- ・講師の資料が欲しかったです
  - ・司会が少し話し過ぎ。言語化しようと頑張っていたが、結果、子どもたちの言葉が二転することがあり、誘導しているように感じた。
- ククルに視点を合わすならククルスタッフの声も必要も入れて深めた方が良かった。

- ・条例の中身についての説明があったらもっとよかったと思います
  - ・林さん、松本さんそれぞれの立場のお話が聞けて、理解が深まりました。パネルディスカッションでは子どもたちの意見に沿って、みんなで考えていく流れが分かりやすくとても勉強になりました。
  - ・子どもたちの声をもっと聞きたかった。
  - ・世田谷区の取り組みが大きく参考になった。中高生の生の声が聞けて、彼らの気持ちが分かった。「子どもの話を聞く」ことについてとても考えさせられた。
  - ・普段、なかなか聞けないような意見などがあり有意義だった
  - ・講演内容、子どもたちの意見などとても良かったです。
  - ・子ども自身の声を聞くことができたのは良かったと思いました。
- 一方で、もっと時間をかけて世田谷区の話（先進自治体）をしていただく方が良かったと思うので。
- ・わかりやすく聞けたと思います
  - ・世田谷区の条例策定の経緯や林先生の話がよかった。  
登壇したこどもの考えを聞く機会が多くてよかった。
  - ・子どもの権利は当然のことだと思うが、なぜ条例などが必要なのが今ひとつ理解できなかった
  - ・もう少しパネリストの話を聞きたかった
- ディスカッションでは司会者の主観が入りすぎててパネリストの話があまり聞けなかった
- ・去年、沖縄県のこどもの権利シンポジウムに参加しました。両氏の講演で、具体的な内容が聴けて良かったです。
  - ・子ども基本法のことを知れた(法律のことまで知れた)
  - ・子供がシンポジウムに参加しているところが良かった
  - ・講師、世田谷区の方、登壇の10代2名は素晴らしかったですが、那覇市の方は書いてあることを読むだけで、「で？」あなたのきもちは何と感しました。。書いてあることを読むだけの大人を間近で見ている10代の子たちはどう感じたのでしょうか、
  - ・人権についての取り組みを知る事ができました
  - ・基調講演が短すぎて、各講演者の講義をもう少し聴きたかったことと、パネルディスカッションの司会者がパネリストに発言を促すよりも、本人の話す時間が長く、他のパネリストの意見をもっと聴きたくて消化不良でした。
  - ・那覇市が、子どもの権利条例を策定するにあたり、参考にできる内容があったと思う。
  - ・市が中心となって取り組もうとしている様子が、参加者に議員や行政の方もふくまれていたことから、期待できると感じたため。
  - ・子どもの権利について知ることができたから

- ・他市の取り組み状況を聞ける場はなかなかない
- ・義務を果たさないと権利を主張できないのかというお話の具体例で考えると一部納得したため
- ・子どもの権利条約についての現状と問題点が知れて良かった。
- ・こどもの権利がどういうものか理解できた。世田谷の先進的な取り組みを知ることができた。

若者の意見が聴けた。

- ・こどもへのアプローチのヒントが得られたから
- ・子どもの人権について、倫理的な話が多く、民法改正した離婚後共同親権に至った片親の連れ去りや、行政による親子断絶の児童相談所の問題がほとんどなかったのが残念でした。

那覇市の子どもの権利条例には親子の引き離しは重大な心理的虐待だと明記していただきたいです。親子の引き離しは魂の殺人と言われている事、広く周知すべきです。

- ・県外の取組みが聞けた事
  - ・MCがしゃべりすぎ。せっかく実績のあるパネリストがいるのに、そこを引き出していない。
  - ・こどもの人権について考える機会になった。
  - ・他の自治体の取り組みを聞けた。子どもの声を聞くことができた。
  - ・仕事で考えていることについて、とても参考になりました。
  - ・子供の権利条例の先進事例を知ることができました
  - ・行政の実態がよく見えた
  - ・パネルディスカッションにて、司会が1番喋っていた。もっと話を聞き出してほしかった。
- せっかく来ていただいた林先生、松本部長の話をもっと聞きたかった。
- ・子どもの権利に関する行政面での最前線の取り組みを学ぶことができ、とても勉強になりました。(意見)中高生は「子ども」ではなく「若者」と呼ぶべきではないかと、パネルディスカッションの際気になりました。また、せっかく県外から講師が来られているので、次回は若者+パネリスト同士のクロストークでも良い気がします。最後に、今後はジェンダーバランスも考慮して同企画を展開していただけたらと感じました。(子どもの権利の解説の中にもジェンダーの視点をもう少し盛り込んでよいと考えます。)
  - ・子どもの権利について再認識できた。
  - ・ファシリテーターがしゃべりすぎだと感じた
  - ・世田谷区の担当者の言葉は経験から出てくることが多くて分かり易かった。

質問に対して高校生の回答がとても勉強になった。

子供と大人の間の問題だけではなく職場環境に置き換えても当てはまるなと思ってしまったから。

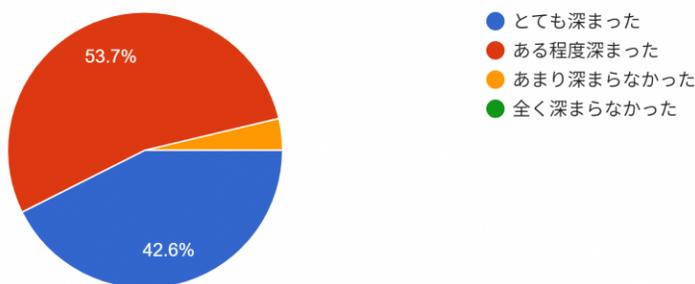
- ・お二方の話や子ども当事者の声を聞いたのはよかった。平日の夜だったのでどうにか参加できたが、日曜日にやっていただけるともっと余裕を持って聞けたと思う。もう少しお話を聞きたかった。

- ・講演も基調報告も素晴らしかったです。パネルディスカッションも良かったのですが、登壇者の皆さんの声をもっと聞きたかった。登壇者が中心となるディスカッションだったら満足度は「とても高い」でした。
- ・他県の情報やこどもの権利条例について聞いてよかった。
- ・基調講演、基調報告は、よかった。パネルディスカッションでは、パネリストの話をもっと聞きたかった。司会、進行について検討していただきたい。
- ・子育てにおけるヒントになるのがあった
- ・パネルディスカッションに、来場者とのやりとりもあったら良かった。パネリストの山崎さんの語りが多かった。おとなが子どもの意見をきけているかという話題で、「子どもはおとなを頼りたい」のではないかとまとめていたが、そうではないのではないかと感じた。子ども若者は、自分たちの相談した内容に対しての真摯な返答やリアクションがほしい、対等に話してほしい、ということをお願いしたかったのではないだろうか。また「子どもの声を引き出す」という表現も、おとなは手放した方が良く感じた。まだまだおとなの意識が子どもと対等ではないことを目の当たりにした。
- ・短い時間にギュッと詰まった感じだったので、もう少し講演の時間が長ければ良いと感じた。
- ・松本さんの基調報告が参考になった。
- ・うーむ 😞 出来ればzoom参加が可能であればもっと参加し易い人がいたかもしれません。私もその1人で。参加できたら良いが足もない療養中の身で普通の人なら参加諦めレベルな、参加難民だったかも。すみませんが遅れての参加でした。内容が素晴らしかったから勿体なくって。

## ■今日のシンポジウムを通して、「こどもに権利がある」ということへの理解が深まりましたか？

今日のシンポジウムを通して、「こどもに権利がある」ということへの理解が深まりましたか？

54件の回答



■「こどもの権利」の中で、特に印象に残ったキーワードや考え方があれば教えてください。

- 幸せに生きる権利 平等
  - スマホの使い方
  - こどもの権利ってどれだけ知られてるんですか？の投げかけから、そこの課題を明確に出来て良かったと思いました。
  - 子どもが言ったことを大人が拾い上げることが大事。
  - 最後の柊くんの「大人は子どもに対して言われて嫌なことは言わないであげてほしい」という声がとても胸に刺さりました。いろいろと言えない事はあったかと思うが、同年代の子の言えない思いを彼が代弁して伝えてくれた気がしました。言いたいことが言い合える場がもっと必要で、周囲の大人ももっと耳を向けるべきだと感じました。
  - 「子どもの話を聞く」ことについて、大人がやらなければならないことが分かった。
  - こどもにもしっかりと、同じ権利を有しており、尊重する
  - view(思い描く)を積み重ねる
  - 意見を聞く大切さ
  - こどもの意見を聴く
  - 民主主義の中の主権者として育てる
- 人権主義  
国民主体  
子どもを市民として育てる  
子どもは主権者
- こどもは有権者ではないが主権者である
  - Views 意見を聴く
  - 【話し合っ解決する】これが人間にできる英智
  - 自己決定権。これを認めてもらえることは、子供の人生においてとても大きいと思う。
  - こどもは主権者。
  - こどもは有権者ではなくても主権者である
  - 主権者を育てる
  - 子どもは、一人一人が今を生きる権利の主体
  - 林先生のお話した聞いていませんが、こどもが主体である意味、意義をあらためて感じました。
  - くくるについての話が印象に残った。
- くくるに通っておしゃべりとゲームばかり好きなことだけしたい子どもが増加したら、今後の日本と那覇市の財源はどうなるのかと不安になった。

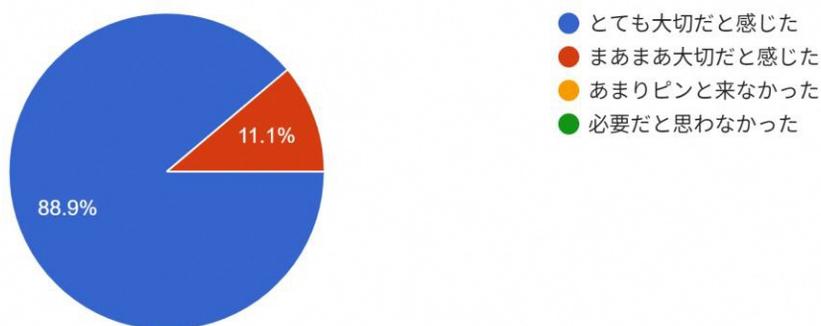
■「こどもの権利」の中で、特に印象に残ったキーワードや考え方があれば教えてください。

- 向き合ってほしい
- こどもは主権者である。また英語ではviewと表現する。
- 子どもも民主主義を育むひとりであること
- 安全安心に生きられる。意見が言える、聴いてもらえる。やりたいことにチャレンジできる。その子にとって最善の利益を考える。
- こどもも一人前の権利主体
- 生命、安心安全は子どもの前に人間なので当然の権利で、親に養育される権利。子どもの権利条例、7条、9条の親子が引き離されない権利を取り上げてほしかったです。国が児相強化を続け、親子断絶、拉致国家で泣いて苦しんでいる  
親子、命をたった親子がいる中、あまり意識されてない現状を目の当たりにし、ショックと驚きの内容でもありました。
- 生存権 誰でも平等に幸せに生きる権利があることを大事にしています
- 先ずはこどもの声を聴く。自己決定させる。
- 子どもが意見を受け止めてもらったとき、子どもは喜んでもるか？
- 有権者ではないが主権者
- 子ども天国…と揶揄されることもあるけど、実際は貧困、複雑な社会環境など子どもの置かれている現実を可視化したい。…あ、キーワードでしたか。
- 同じ区民でも、大人の声は聞くのに、子どもの声は聞いてもらいにくいというところに、ハッとしました。
- こどもは主権者であり、主張する権利があること。
- 主体
- 子どもが権利を持つ主体である
- こどもの話を聞くだけでなく、一緒に考えて行動してほしい。
- こどもの声を聞く
- 子どもに選ばせる 話をしっかり聞く
- 社会全体で子どもをみる、その場づくりが大事
- 権利条約採択の頃には、多くの勉強会が開かれ、権利についてもある程度理解しているつもりではありますが、意見の表明権については、日本は弱いなぁと以前から感じています。
- こどもも基本的人権の主体
- 当事者が決定プロセスに関わる
- こどもにも自分の意思を伝える権利がある!!

## ■「こどもの権利を保障する地域づくり」の重要性について、どのように感じましたか？

「こどもの権利を保障する地域づくり」の重要性について、どのように感じましたか？

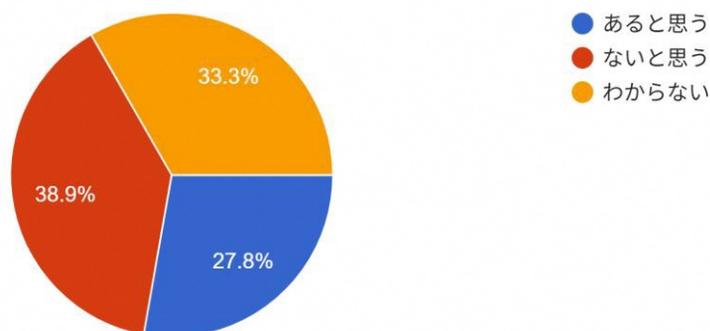
54件の回答



## ■ご自身の地域に「こどもの権利を守る仕組み」や「こどもの声を聴く場」があると思いますか？

ご自身の地域に「こどもの権利を守る仕組み」や「こどもの声を聴く場」があると思いますか？

54件の回答



■「(仮称)那覇市こどもの権利条例」に、盛り込んでほしいと思う内容・言葉があれば教えてください。

- 大人や行政からの子どもへの決意表明。
- 国連子どもの権利条約について全く触れられていないので、前文または第1条に入れるのはどうか？この条例で言う子どもの権利は、条約の考え方に沿ったものであることを明確に明記する必要があるのではないかと思うので。第8条その他に「こどもは、自分にこどもの権利が認められることを理解し、」など「権利が認められる」という表現があるが、権利を認める主語が明記されておらず、このような文章のままだと、自治体やこの条例で権利を認めているような間違った解釈になる可能性があるかもしれません。条約第4条「締約国は、この条約において認められる権利の実現のため、すべての適当な立法措置、行政措置その他の措置を講ずる。」とあるように、子どもの権利を認めているのは条約であるため、「認める」という表現を使うのであればなおさら条約について明記が必要かと思います。
- 子どもたちにもっとわかりやすい内容になると良いかと思う。
- 「子どもの話を聞く」ために、「大人がやらなければならないこと」を盛り込んでほしい。
- 地域住民が一体となって、こどもの尊厳を守り、環境維持に努める
- みんな昔はこどもだった
- こどもの権利について教育にも盛り込む
- 大人は、子どものために時間をつくり、子どもと遊び、子どもの声を聞き、子どもの希望を聞いて実現するための模索をする
- みんなが誇りの持てる なは市
- 意見でなく、まず心の表明
- こどもが安心して過ごせる居場所
- 自分の性や他者の性を尊重することについて加筆してほしいです。
- こどもの権利が当たり前のことだということを周知する方法の明記
- こども主体、こども参画、こども参加、こどもの声、当事者（こども）
- 権利とともに義務について
- view
- 地域づくりという言葉。親、学校、当事者だけではなく、地域社会全体でこどもの権利を守っていくんだ、というメッセージ。
- 児童虐待への対応
- 文化

- 行政によるありもしない虐待で子どもの連れ去りを児童相談所がやっており、国連勧告を無視し人権侵害をしているので、「親子の引き離しは重大な心理的虐待」を明記し、子どもの権利侵害した者は段階的にペナルティを与える罰則と、チェックする専門機関も設置する事。条例だけあっても意味がないので。
- 検討中。
- 子どもの意見を形式的に受け取るのではなく、その背景にある環境・経験・心情にも配慮し、子どもの気持ちを丁寧に理解しようとする姿勢を条例に明記していただきたいです。
- 子供の声をきくこと、性別や国籍による差別の禁止、子供達の生きづらさの解消、
- 平和
- 教育委員会や学校・教育関係者も同じ目線で取り組んでほしいです。とくに、同条例が採択されたら、学校の教室にも張り出して、子どもたちの目につくところに届けてほしいです。
- 大人はこどものロールモデルでなければならない。
- こどもは議会に自分たちの願いを言うこともできる。
- 世田谷区でのもので、「言葉や思いをしっかりと受け止めた上で向き合ってください」という言葉は入れてほしいと思った。
- 世田谷区のようにこどもの声を聞いて一緒に作り上げるぐらいの勢いがほしい。
- 子どもたちの意見を聞く場をたくさん作って欲しい
- 子どもの権利条約を守るという文言をいれてほしい。差別の禁止についても文言がないのが気になる。子どもの権利の普及、推進。子どもの権利の保障と救済のための機関を置くことも明記して欲しい。
- 権利条約に盛り込まれている主な物、特に貧困や、環境によって未来が制限されることはないことを謳って欲しい
- 世田谷区のように「こどもの気持ち」を条文に盛り込むとより良いものになると思う。
- 時代の変化に対応した安全の保障(ネットやAIなど)
- 保育園や小中高生でも発達に特別な配慮が必要な子ども達いますよね。彼等の支援に対しても支援者と保護者と担任だけで決めるより、積極的に本人も交える事が大切だと思っています。こどもって小さな人です。大人と同じ様にちゃんと意思や気持ちがある!! 1番大切な本人の意思を尊重する支援の在り方って今後重要になるとと思っています。昔と違って個性や意思を尊重する時代でしょう?! こども扱いし過ぎないでちゃんとこどもの意思を確認して、「頭ごなしに親や関わる大人の意見を押し付けけない」がテッパンだと思っています。(スミマセン私は歳の割に幼いくて、こどももいないのでまだ大人になりきれていません!! その分こども達に近い存在です。)守る必要はあるけど、ルールを敷く必要はないよね、はき違えないようにしましょう、と。アッこれは那覇だけじゃなくて国全体に主張したい事です。

■ 「今後「こどもの声を地域で聴く」ために、どんな工夫が必要だと思いますか？

- 集まる場、機会が必要
- 小学校区コミュニティ協議会の活用。
- 文化と仕組みの両方が必要かと思います。意見尊重の施策については、もう少し制度としても具体的に書いておくのはどうでしょうか。
- 子どもが参加できる場の選択肢を増やす
- こどもが安心して過ごせる居場所があるとよいのでは？居場所だけでなく、こどもが安心してSOSを出せる大人を増やすことも大切だと思います。例えば、話しても安心だと思える人柄、相手の話を聴く力、適切な機関に繋げる力（話を聞いてはくれるが解決はしないと言っていたので）信頼を裏切らない対応ができる等）
- 表面的に「聞く」のではなく、きちんと受け止めること、また、聞いたら彼らの願いをかなえるために「動く」こと、など。
- こどもへの関心を高めて、寄り添う姿勢
- 大人が変わること
- 学校と地域の連携とこども達だけじゃなく保護者の認識
- 乳幼児期のこどもの声は保育者達が聴いているので代弁の場を儲けて欲しい
- また「子どものつぶやき」を記録している園も多々あるので、それを紹介する場や機会があるといい、こども自身に子供の権利について考えてもらう機会が必要だと思う。
- 何よりもまず、子ども達に関わる大人への周知&認知が、最重要だと思います。子どもは、『親の所有』との意識が根強く残っていると思います。親、保育士や教職員を優先的に、周知する必要があるのでは？と思います。
- おとながまず、聴き方(傾聴力)を学ぶこと
- 施設を新たにつくるか、商業施設を利用するなど、『場』が必要だと思う
- こどもが安心して話せる場所、ひと、時間の確保が必要。
- アドボケイトを養成し、地域の方が各小学校区単位で活動できるようにすることが望まれます。
- こどもの声を聞くことのできる人材の確保
- おとなの意識改革、こどもが話ができる場の提供
- 今日のようなワークショップはもっとあって良いと思います。
- 人って自分に興味があることしか聞かないし覚えようとしなないから、子育て世帯とか子育てに関する仕事をしてる人以外にどう広めるか。声を聞くことが当たり前のことだと思うに、周りの人から広めていく？

- 地域では、子供会があり、そこで子供達と繋がっているが部活動で参加できない子供達を地域に参加できる環境作りに工夫が必要なのかと思います。
- こども若者の居場所をつくる。こども若者と一緒にできる活動を増やす。様々なコミュニティでこどもの権利条例を学ぶ。
- 大人よりもこどもの人数が多い場で議論
- 興味を持ってもらう
- 保育園、学校、児童相談所、里親、
- 養護施設にカウンセラー、
- アドボカケイトのできる方を
- 派遣して専門機関にアウトプットする
- 仕組みを作る。
- コミュニティの場が必要・児童館や人権教室、民生委員等の活動を繋げる
- 子どもたちが安心して居られる場所作り。地域の大人と繋がれる場所。
- こどもの声を聴く場を増やす。
- 子どもは自分の気持ちをうまく言語化できないことも多いため、
- 心理の専門家が身近にいて気持ちを整理したり言葉にする手助けをしてもらえる環境が必要だと思います。
- 理解を深める。子どもの声を聞ける人を増やす、場を増やす。
- 学校と連携して市内全校でワークショップとかお話し会。アンケート調査。子供会議を行なって議会に要請する。
- 子どもに関わっている人、団体などの連携がゆるくあること。
- 今日のシンポと同じ内容のものを、各地域の公民館などでもっと実施してほしいです。
- 地域全体でこどもを見守る仕組みの確立
- こどもが自分の思いを話せる環境(人・場所)をつくること
- 大人が子どもの話を聞く姿勢を作る。聞くだけでなく話し合える環境も整える悩みを聞くだけでなく解決するためにうごいてくれる
- 聞く時間、聞く場所を設定して行う。
- こどもの権利について、意識する大人が増えるようこのようなシンポジウムやこども意見交換の場をもうける
- アンケート？
- 那覇市のイベントや児童館や学童とかの子どもたちへアンケート実施してみる

- 子どもの権利についておとなが学習すること。また、子どもは将来のおとなであることを意識して、昔子どもであったことをおとなは意識して子ども達と関わること。
- 地域の繋がりが薄れてきていて、子どもの集まる場所、時間が減っていると思う。声を聞く場というよりも、地域の子どもの集まってワイワイやれる場を保証し、その中でそれぞれが自分の夢や希望、不満や困り感が語れると良い。大きな組織でたくさんの子どもを集めるというより、ご近所の軒先で、ちょこっと集まる感じ。いつ来てもいつ帰っても良いし、何かをやってもやらなくても良い場所の保証をして欲しい。
- 学校ではない場でのワークショップ
- 学校地区単位での周知活動
- 私は自分の地域の公民館で週一程度ボランティアをしたい!! と思いました。早速役場に問い合わせてみます。くる、でした?? 松川のこどもの居場所、そんなのを自分の地域でも作りたい!! 療養中で半ばニートな身分な私だからこそ出来る事だと思いましたヽ(\*´▽`\*)

■「今日のシンポジウムを通じて、「(仮称) 那覇市こどもの権利条例」に盛り込んでほしいと思ったことはありますか?

- 世田谷区の条例のようにそれぞれの立場の言葉。
- .第10条の市の役割の中に、こどもの権利に関する啓発、広報を明記すると良いのではないのでしょうか。
- 内容が子どもにわかりやすく伝わるものになればよいと思う。(子どもの権利条約をカルタにする等) 子どもたちに内容が伝わらない事には、子どもの声を出していくことにはつながらないので…
- あります
- 大人や地域のあり方も盛り込んでほしい
- こどもの権利という言葉がどの程度浸透しているかを知るための仕組みを盛り込んでほしい
- こどもの声を聴く(ご意見箱の設置など)環境を整える
- 大人は子どもに対してどう接するかを入れて欲しい
- 一人一人の意見を大切に
- わかりません
- くるさんのような居場所をふやす。周知して欲しい。こどもが安心して遊べる公園等の整備をして欲しいと思いました。
- 林さんがおっしゃっていたように(子どもの役割)は、無くてもいいと思います。大人や専門家に相談する力を育てることも大事だと思いますが、どのような形で条例に入れたらいいのかわかりません。
- 子どもの権利が、当たり前なことだということを周知する方法の明記

- 条例に直接盛り込むのは難しいと思いますが、条例を見たこどもが自分の権利侵害に気付いた時に、相談できる窓口も一緒に情報提供してほしいです。その声を聴くための、アドボケイトやオムブズパーソン等を那覇市でも配置していくことを明示してもらえたらいいなと思います。
- 衣食住が守られ、安心して幸せに暮らせる権利があるということ
- 条例を普及させる方法。那覇らしさ。
- 定期的なこどもへの意見聴取 取り組みの効果検証
- 那覇市のご家セン、保育園、学校から児童相談所が緊急性もなく子どもの連れ去りがないよう、児相問題について国連勧告も明記する事。
- 検討中。
- 家族で過ごす時間が十分に確保できない家庭が多いと感じています。また、子どもの育て方に悩み、適切な関わり方が分からない大人も少なくありません。子どもと大人の双方が安心して学び合い、良い関係を築けるよう、支援や相談しやすい環境づくりを進めていただきたいです
- 普及啓発活動、子どもとの対話の大切さ
- 戦争させない社会に住む生きる権利
- 仕事柄、外国ルーツの子どもの支援をしているので、そうしたマイノリティについてのテーマも今後また取り扱ってほしいです。「市子どもの権利条例」には、必ずジェンダー平等の視点を入れてほしいです。(参考) <https://chatgpt.com/share/693b862f-d4d4-8001-abe9-d4329a72260d>
- 前述のとおり
- 子どもの声を聞いてその声のために大人が動けるような助成があればいいなと思う。子どもはすべての大人で守り育てる
- 子どもたちにとって過ごしやすい那覇市
- 18歳未満の子どものみでなく、発達に応じた若者も含めた条例になっても良いのではないか。「意見を述べる権利」という文言になっているが、発言して表現する以外の意見の表し方も認め、乳幼児の気持ちもききとれるキャッチすることが必要であると分かる文言することが必要だと思う。さらに、「子どもの役割」の表現には疑問もある。この条例全体を子ども若者と話しあって言葉を決定するプロセスを経て、時間をかけて条例づくりをして欲しい

- 書いてしまったかな……とにかく未来を担う子ども達の意志を尊重する動きはとても良いことです。本来なら当たり前のはずだけど、蔑ろにしていましたよね、 unnecessary な身なり検査 etc……一番早急に必要なのは教育現場との連携ですねお子さん達をお預かりしている身分なので。その我々がこどもの意志を尊重しないで教育していたら、子ども達は大人はレースばかり敷いて全然こどもの意志を聞かない、と諦めてしまう。デモその代わり危険行為や思春期の性教育等命に関わる危険な行為は、命を落とす可能性もある!! ので絶対ダメです 🙏 ㊦これは命令くらい絶対守ろう知っておこう、という事も時には厳しく教えなきゃいけないし、そこら辺は家庭とも連携して「守るくんルール」的な感じで教える必要があります。最低限命に関わる事は善悪の判断を教えてそのこのルールに基づいたら、後は1人ひとりの意志や意見をどこまで尊重出来るか、話し合いの場を持つのが大切だと思います。言うのは易いが………実際にはやり続けるのが大変でしょうねー。デモ地域を日本をより良い子ども達の居場所にするのに必要な事なのでやりましょう!! 情報交換しながら。